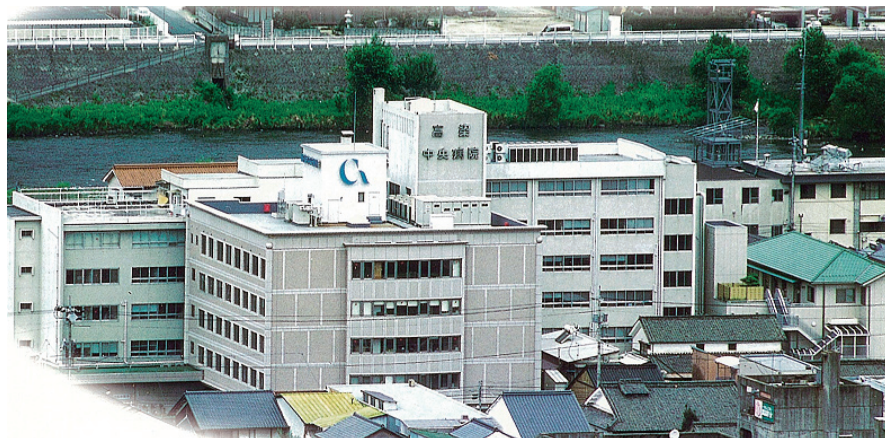


医療法人清梁会 高梁中央病院

吉田 栄一



はじめに

高梁市は、岡山県の中西部に位置し、県下三大河川の一つ高梁川が中央部を南北に貫流し、その両側に吉備高原が東西に広がっています。

また本市は、備中の小京都と呼ばれ美しい山々に囲まれた盆地の中央部を清流高梁川がゆつくりと流れ、かつて備中の中心地として栄え、藩政時代の名残をとどめた市内には、日本一高い山城の備中松山城をはじめ頼久寺、武家屋敷館、商家資料館など数多くの文化遺産が点在し、長い歴史と文化の薫りを漂わせています。

また、高梁のもう一つの顔は、学園文化都市で平成2年に誘致し開学した吉備国際大学に全国から学生が集まり、人口は、約38,000人です。

当病院は、昭和46年開院した医療法人清梁会戸田病院と昭和36年開院した友近外科病院、後に高梁中央病院に改名し、その2病院が平成10年11月に併合し、平成12年4月1日、戸田病院を廃止し、戸田病院跡地をさくらクリニックとして、高梁中央病院隣接地に戸田病院の病床88床を増設し医療法人清梁会高梁中央病院として221床で新発足したものです。

急性期医療を主体に、回復期、維

持期、在宅医療と幅広く地域医療に貢献すべく、日々活動をつづけているところです。

沿革

- 昭和36年4月 友近外科病院開設20床 理事長故友近 茂
- 昭和36年12月 医療法人厚友会友近外科病院
- 昭和47年5月 医療法人厚友会高梁中央病院改名する。
- 昭和46年7月 戸田病院開設32床 理事長 故戸田信義
- 昭和46年10月 医療法人清梁会戸田病院
- 平成9年7月 医療法人清梁会、医療法人厚友会 両理事長戸田俊介就任
- 平成11年2月 医療法人清梁会、医療法人厚友会併合し医療法人厚友会は、解散
- 平成12年4月 医療法人清梁会高梁中央病院 新発足221床 さくらクリニック（戸田病院跡地）新発足
- 平成13年4月 血液透析センター開設

- 平成15年9月 日本機能評価機構認定(複合病院種別B)
- 平成17年4月 高梁中央訪問看護ステーション設立
- 平成17年4月 高梁地域リハビリテーション広域支援センター指定
- 平成17年9月 協力型臨床研修指定(岡大、川大、岡山済生会)
- 平成19年1月 障害者施設等一般病棟 32床 新設
- 平成19年7月 脳血管疾患リハビリテーション料(I) 運動器リハビリテーション料(I) 呼吸器リハビリテーション料(II) 受理
- 平成20年8月 災害拠点病院指定

病院の概要

診療科目

内科・外科・胃腸内科・肛門科・整形外科・脳神経外科・泌尿器科・放射線・循環器科・眼科・皮膚科・心療内科・麻酔科・精神科

病床数

一般病床116床

内・一般病床 84床10:1入院基本料(亜急性期病床 6床)
・障害者施設等一般病棟32床(亜急性期病床 6床)

医療療養病床40床

25:1療養病棟入院基本料

介護療養医療施設49床

療養型介護療養施設サービス費I
看護職員6:1 介護職員4:1

職員数

医師17名、看護職員100名、薬剤師5名、放射線技師7名、臨床検査技師5名、管理栄養士3名、理学療法士6名、作業療法士4名、言語聴覚士2名、その他113名 合計262名

施設の概要

- NBI機能搭載新電子内視鏡システム(EVIS LUC ERA SPECTRUM)
- マルチヘリカルCT Aquilion16
- 磁気共鳴断層撮影装置MRT-1000/L2
- Cアーム搭載型多目的デジタルX線撮影装置
- 超音波画像診断装置SSA-660A, 550A
- オーダリングシステム(富士通HOPE/CSMAIN)
- 血液透析用コンソール

関連施設

医療法人清梁会

- さくらクリニック
内科・脳神経外科・泌尿器科・精神科ほか
- 老健施設ゆうゆう村
入所100床 通所リハビリテーション 30名
- ゆうゆう村在宅介護支援センター
- 高梁中央訪問看護ステーション

病院の特徴

当院は、病院は患者様と地域社会のものという理念のもとにすべての患者様のために、正確で適切な医療と安全な医療を提供できるように心がけています。

高梁市は、高齢化比率が県下でも高く、当院の受診者も高齢の方が多くを占めています。

そのため慢性疾患はもちろん救急病院としての役割も大いに期待されているところです。

診療体制は、岡山大学等の支援を賜りながら常勤、非常勤を含め多科の専門医がいることが一つの特徴で肝臓、消化器、血液、糖尿、心療内科、脳外科、整形、皮膚科、眼科、

消化器外科さらには透析、リハビリと多岐にわたっています。

最近では、地域連携という言葉が良く聞かれるように大腿骨頸部骨折、脳卒中では、早期にリハビリ～在宅へというクリティカルパスも普及してきています。

当院でも、ケアミックスの病院として急性期、回復期および維持期のリハビリテーションに傾注し、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等14名で社会復帰、在宅復帰にむけてQOLの向上のために努力している次第です。

また、平成17年度には、岡山県から高梁地域リハビリテーション広域支援センターにも指定されたことでリハビリの職員一同その役割の重要性を認識するとともに意欲も一層かきたてられています。

血液透析は、平成13年4月に開設して以来20床まで増床することとなり現在約70名の維持透析を行っています。

特に長期透析合併症の予防として透析液の清浄化に取り組んでおり最新式のETRFループ循環ユニットを設置することで透析液のエンドトキシンプリーを実現しています。

また、地域の急性期病院としての役割も考えDPC対象病院を目指し現在活動しているところです。



リハビリテーション科



血液透析センター

最後に

最近マスコミでは、医師不足がさかんに取り上げられています。

高梁地域でも例外ではありません。

また、医師不足の一方で病院、一般開業医でも医師の高齢化が目立つようになり、そのため一次、二次救急の担い手が少なくなり必然的に三次救急への搬送の増加となっています。

地域の住民としては、いつでも、どんな病気でも診てくれる病院(それも地元の病院)を希望しています。

すなわち救急医療の現場では、すべての疾患に対応できる医者が必要とされている一方で、時には専門医としての役割も要求される場合もあることです。

しかし医師不足の現状ではこうした要求にすべて応じるのは困難といわざるをえません。

当院では、これからも地域の躯幹病院として住民のニーズに応えるよう努力する一方で住民の皆様との間のコミュニケーションをはかり現在の病院の現状を理解していただくと共にお互いにとってメリットがある方策を模索して行くつもりです。

平成20年11月受理

〒716-0033 岡山県高梁市南町53

電話：0866-22-3636 FAX：0866-22-0536

E-mail：sei-tch@po.harenet.ne.jp

http://www.harenet.ne.jp/sei-tch/